

ホタル

* 荒川小ホームページとブログを定期的に更新しています。是非ご覧ください。

荒川小のHP
ブログはこちら



学校だより No.6
令和3年 10月号
いちき串木野市立
荒川小学校

読書の秋に本を身近に置いて

校長 川崎 孝

10月に本校では「読書旬間」を設定しています。期間中の貸出し冊数を増やしたり、読書についての俳句を作ったり、学校職員による読み聞かせも計画されています。1年間に1・2年は100冊、3・4年は80冊、5・6年は60冊の読書目標を立てています。1・2年は絵本などが多くて1日1冊は簡単に読めそうですが、5・6年になると本のボリュームも多くなり、スポーツ少年団や習い事をしていとなかなか読む時間がないといった声も聞かれます。しかし、一方ではゲームやテレビ、YouTubeといったものにも時間を取られているのではと思います。女優やタレントとして活躍している芦田愛菜さんはかなりの読書家として知られています。小学校低学年で年間300冊、小学校高学年で年間180冊、中学生で年間100冊ほどの本を読んだとのこと。ある調査によると小学生が135冊、中学生が56冊というからかなりの読書量だといえます。忙しい中でこれほど本を読んだのは「スキマ時間」を使っていたということです。新幹線での移動中や出かける少し前の2・3分でも読むように努めたそうです。歯磨きしながら読むといったこともありました。子役をしていた頃を思い出すとドラマの台詞をすっかり覚えて、しかも感情を込めた演技ができていたことが伺えるような気がします。読書は、語彙量を増やし、読解力も身に付き、豊かな情操を育てるとも言われます。また、父親が読書家であり興味をもちそうな本を薦めてくれていたそうです。本が身近にある環境が本好きな子に育てたのだらうと思います。毎月23日は親子読書の日となっています。ジャンルを問わず読む・読ませることが大切です。まずは大人も読書する姿を見せられるといいですね。

読書の秋に本を身近に置いて

私の読書習慣は、小学4年生から始まりました。当時の担任の先生は、昼休み時間によく読書をしていました。何が楽しいのかと思って読んでいる本を聞くと「田中角栄伝」という文庫本でした。小学生でも知っている当時の総理大臣であることと、ちょっと厳し目の先生が「読んで見ろ」と言われたのもあって断れず読んでみることにしました。詳細は忘れましたが、上京したタクシーで田舎者と見られて遠回りされて運賃をたくさん払わされたことや列島改造論といって壮大な政策について書かれていたことを思い出しました。1冊の本を読み切れたことが自信になったのか、本を借りるようになりました。大人になっていろいろな文書や専門書を読む機会が多くなりましたが、スキマ時間を使って推理小説など好きな作家の本を読むのが楽しみです。

全国学力・学習状況調査結果

5月27日に全国の小6を対象に国語・算数について全国学力・学習状況調査を実施しました。結果は以下の通りです。

	本校平均通過率(%)	全国平均通過率(%)
国語	69.0	64.7
算数	67.0	70.2

全国平均通過率と比べ国語は4.3%上回り、算数は3.2%下回りました。また無答率は、2教科とも0%でした。問題に粘り強く取り組み、諦めず答えを導く姿勢は確実に身に付いているといえます。課題は、国語の「読むこと」や算数の「数と計算」の領域の定着が挙げられます。目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけたり、式の意味を理解し、基礎的な計算問題に繰り返し取り組んだりすることで確実な定着を図っていきます。

「学習発表会」開催について

11月に計画していたあらかわ文化祭は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度と同様に小学校のみによる「学習発表会」という形で実施することになりました。規模縮小となりますが子どもたちの頑張りが伝わる素晴らしい学習発表会にしたいと考えています。御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

- ◇ 日時 11月13日(土) 9:50~11:00
- ◇ 会場 荒川小学校体育館
- ◇ 内容 各学級の発表、太鼓発表 *PTAや地域の発表はありません。



～昨年度の様子～

11月1～7日は地域が育む「かごしまの教育」県民週間です。

1,2,4,5日は学校自由参観です。いつでも御都合のよい時間帯に子どもたちの様子をご覧にいらしてください。また、学校の様子をぜひご覧いただき、子どもたちへの声援をいただくとありがたいです。なお、例年実施していましたがふれあいバイキング給食は、本年度実施しません。よろしくお願いいたします。*詳しくは、別紙チラシをご覧ください。

稲刈りが終わりました

10/5に稲刈りをしました。今年全部で7俵の収穫でした。田んぼの管理は、まちづくり協議会をはじめとする地域の方々の御協力をいただいています。心より感謝申し上げます。



脱穀



稲刈り



束ねる練習

<10・11月の予定>

10月		11月	
25日(月)	ふるさと美化活動	1日(月)	地域が育む「かごしま教育」県民週間～7日
29日(金)	地区へき連授業公開(荒川小)		心の教育の日
		2日(火)	道徳の特別授業参観
			祖父母・地域高齢者とのふれあい給食【中止】
		3日(水)	文化の日(祝)
		9日(火)	3校合同PTA講演会(西中)
		10日(水)	市音楽発表会【中止】
		11日(木)	家庭学習強調週間～17日
		13日(土)	学習発表会
		20日(土)	南さつま市一輪車大会
		21日(日)	市地区対抗駅伝【中止】
		23日(火)	勤労感謝の日(祝)
		26日(金)	アควア交流(5・6年)
		27日(土)	チャレンジ教室
		29日(月)	校内ビブリオバトル大会
			持久走大会前健康診断

*10月に南日本新聞に掲載された本校の関連記事と学校に届いたハガキを裏面に載せてあります。

主婦 蛭原 尚子(50)

最高の秋晴れに恵まれた先日、次女が通う荒川小学校で運動会が開かれた。特設校制度で校外から通う児童を含めて全校児童が入学して1年が過ぎたという学校。娘にとって小学校最後の運動会も新型コロナウイルスに配慮し、規模を縮小して開かれた。

2年前まで、運動会には校外の幼児や小学生、還暦を迎えた卒業生や荒川川を渡るサイファーの方々もチームを作って参加し、にぎやかだった。ある年の還暦チームには故郷を懐かしんで北海道から駆けつけた方もいて、その思いに感激させられた。

小さな校庭では黄や緑、赤など集落やチーム



どこに決められた色の旗が掲げられていた。大きな声援や笑顔であふれ、真心に響ける楽しいひとときだった。

長女が2年生の時から長男、次女と逐次切れることなく16年間、子どもが荒川小で学ばせてもらった。そのこと心から感謝し、次女の卒業まであと半年、一つ一つの行事をこまめに過ごしたい。コロナが早く収束し、学校と地域の距離がさらに近くなることを願います。(いちき串木野市)

特設校の運動会 コロナ収束願う

令和3年10月12日

荒川小の卒業生の方からハガキが届きました

9日新聞に 蛭原尚子さんの投書拝読しました。

77年私の母校です。荒川金山が私の小学生時は1学年クラス。金山で働く地保からの人父兄総動員の賑やかな運動会でした。(ちなみに金山閉校後は遠く山形県東置賜郡(漢字間違っているかも知れませんが)に転校して同級生もいました。

時は流れ今に至っていますが、各方面の方々の御努力のおかげで母校が、続いてる事と改めて思い、感謝しています。

「小さな(しかし)誇り(た)伝統」が続きますようにと一卒業生の思いです。

蛭原さん、先生方ありがとうございます。

荒川小学校時代が子供心で憧れて、一卒業生より、とうとう心の宝」になりますように。

ボールはこわくない

荒川小4年 坂元清史

3年の春から、こうしき野球のスポーツ少年団に入っています。入ってすぐに出た練習試合で、ピッチャーが投げたボールがバッターボックスに立っていたほのおなか当たりました。すごく良かったです。

それから野球がこわくなくなりました。きらいにならなくなりました。練習はちゃんと行きました。そして試合にも出ました。でも、バッターボックスに立って、ボールがこわくありません。いつかホームランが打てるように練習をがんばろうと思います。(いちき串木野市)



私たちのふるさと発見時

荒川小学校(いちき串木野市)

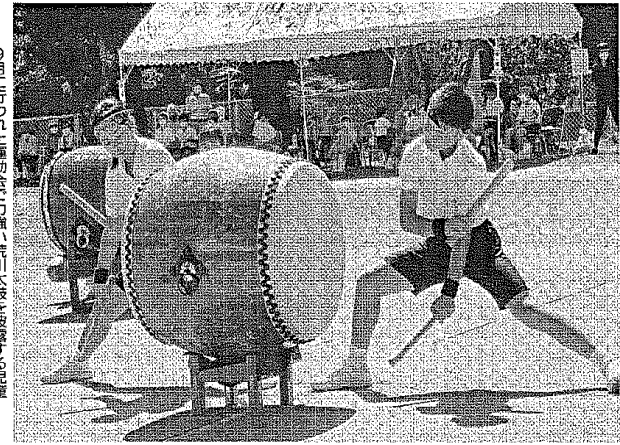
伝統のリズム引き継ぐ

響け荒川太鼓

「下ノ下、下ノ下、下ノ下」。毎年5月に行われる地域行事「ほたるナイト」では、夜空に飛び交うホタルとともに、太鼓の大きな音が荒川川に響き渡ります。

荒川小学校では、総合的な学習の時間を使って全児童が荒川太鼓の練習に取り組みます。指導してくださるのは、外部講師の馬場英一さんです。構え方やたたき方のコツなどを丁寧に教えてくださいます。

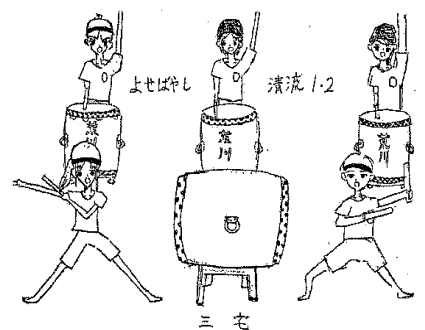
私たちが練習でいつも意識しているのは、「構え」「手を高く上げる」「声を出す」の三つです。初めはタイミングが合わなかったり、声が出なかったり、うまくいかないことも多いですが、上級生が下級生に教えてあげることでも、みんなだんだんと自信をもってたたき始めるようになってきました。一番うれしいのは、イベントでたくさんの方の前で発表して、大きな拍手をもらえたことです。そのためにも一生懸命練習しています。



9月に行われた運動会が強い荒川太鼓を披露する児童



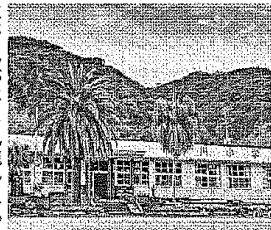
下級生にたたき方を手ほどきする上級生



私たちの荒川小学校は、いちき串木野市の北西部に位置し、創立42周年の歴史と伝統を誇る学校です。現在、小規模校特別認可制度による校外児童を含め、24人が通っています。

「あかるく、すなおに、たくましく」を校训に一人一人が主役になれる学校を目指して、明るく、元気に活動しています。

豊かな環境、のびのびと



くのびのびと学校生活を送っています。

荒川小は、近くに荒川が流れ、田んぼに囲まれた自然豊かな環境です。5月下旬、清流にホタルがたくさん現れます。私たちは、荒川の自然を生かした学習活動をしています。

一つ目は、学校の田んぼを活用し、稲作を体験しています。これは本校が取り組んでいる

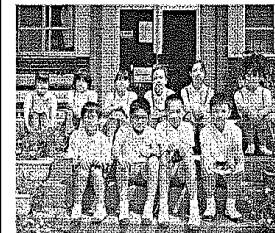
す。苗の準備や水の管理はまちづくり協議会会長の中野伸一さんをはじめとする地域の方々の協力もあって行っています。みんなが協力して収穫できたときの喜びはひととち大きいです。収穫したお米は、10月の遠足にお弁当で試食するのが恒例です。

二つ目は、3・4年生の総合的な学習「ホタルについて調べよう」です。ホタルの生態についてインターネットを使った調べ学習、地域の方に聞いたりして調べます。中学生になると地域行事「ほたるナイト」で、ガイドとして外部の方に説明する役割を任せられます。立派なガイドになれるよう学習しています。

小さな学校ならではの、委員会や係の活動は全員の力で、大変なこともあるけれど、助け合っています。荒川小に興味がある人はぜひ遊びに来てほしいです。

わたしたちが取り組んでいる

6年 甲斐誠人、伊藤志、蛭原万梨香、鬼塚里奈、加藤桜子、徳永花恋、中野心杏、中野紗那、5年 木下緑、中馬雷▽指導 田中一良教諭



今回、荒川太鼓について調べてみると知らないことがたくさんありました。特に2002年度の全校児童は6人と廃校の危機だったけど、荒川太鼓を始めて少しずつ児童数が増えていったこと大変驚きました。

荒川太鼓には、当時の人たちの思いや地域の方の願いが込められていることがよく分かりました。太鼓を演奏するときは、音の強弱に気を付けてたたきます。下拍子や横笛に合わせてたたくのは少し難しいけれど、全員の息がぴったり合うと気持ちいいです。これからも全員で力を合わせ、学校や地域が元気になるよう荒川太鼓のよき伝統を引き継いでいきます。

この企画は、南日本新聞社の広告主でつくる南日本広友会の社会事業です。子どもたちが発見し、取材・撮影した「地域の宝」を紹介します。制作：南日本新聞社営業局